



園長先生の自己紹介

私は「ひよ子こども園かみみね」の園長を務めております池松英治と申します。また、学習塾「クオリティゼミナール」も運営しており、幼児教育をはじめ、小学生から大学受験に至るまで、子どもたちの長きにわたる成長を支える仕事に携わっております。

この経験を通じて、子どもたちの可能性を引き出すための関わり方を学んでまいりました。また、家庭内での接し方が、子どもの成長に大きな影響を及ぼすことも実感しております。

ひよ子こども園児（在・卒）の保護者さまには、「可能性を引き出す関わり方」について、お力添えができれば幸いです。



これまで多くの小学生から高校生の指導をしてきました。「伸ばしやすい子」と「そうでない子がいます」それは「思考の癖」と「気質」が関係しています。まず、思考の癖の大部分は環境（親やこども園）が影響します。だからこそ保護者の皆様には可能性の引し方をお伝えします。そして、ひよ子こども園では、将来伸びるための土壌作りとなる「主体性を引き出す保育・教育」を実践しております。

またお子様の気質は、遺伝的なものが大きいです。一人ひとり異なります。私は、これまで、その子の気質を見抜き、その子にあったカリキュラムと指導方法で伸ばす仕事をしてきました。身につけた「池松Style」は多くのご家庭とお子様のお役に立てるのではないかと思います。

私が薦める保育とは

幼児期は「させれば、何でもできるようになる能力」を持っています。だからと言って、英語・マーチング・体操とやらせれば良いというものではありません。ある年齢に達すると「やる気がなくて…」という小学生や中学生の保護者の悩みは尽きません。

主体性を身につけるという点が見落とされていたのです。主体性とはどのようにやって身につくのでしょうか？ 幼児期の「遊び＝学び」によって身につきます。

私は高学歴の学生さんも輩出してきましたが、勉強はできても。。。という生徒さんの中には、「遊び＝学び」が不足していたのではないかなと感じることもあります。「遊び＝学び」は、人との関わり、協働性、自己表現、共感力を身につけてさせてくれます。

ひよ子こども園では、幼児期に欠かせない「子ども主体の保育」が実践されています。ひよ子こども園には、幼児教育の権威、お茶の水女子大学名誉教授：内田伸子先生が顧問として指導して下さいます。また先生方にとっては働く環境は年々向上しています。だからこそ、レベルの高い保育教諭が集まってくださり、保育士不足とは無縁です。ゆとりのある人員配置でゆとりのある先生方が丁寧に子どもたちと向き合ってくれます。

何より、垂涎の的である「魅力的な園庭」があります。上峰町の山里に位置し、豊かな自然が溢れています。子どもたちは、朝から「園に行きたい」、夕方は「帰りたくない」という、ひよ子こども園で、お子様の幼児期を過ごしてみませんか。

